

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]



特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

世界で輝く! KG PEOPLE

数字でみる関学
交換留学ができる海外協定校数
突撃! KG CLUB
文化総部 茶道部

2017.1.16
254号



学長の ポケット レポート

World Citizen (世界市民)

関西学院大学を出て、世界で活躍する人が増えてきています。大変嬉しいことです。

本学のグローバル人材の定義は、「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を兼ね備えた人物であるとしています。海外に出ると、文化や風習の違いによって、戸惑うことや不安に思うこともあるでしょう。それを主体的にタフに乗り越えてこそ、異文化に対する理解や多様性の重要性がわかるのではないのでしょうか。

「グローバル人材」という言葉を使いましたが、関西学院では、ミシシッピ州にあるランバス先生の碑に因んでWorld Citizen(世界市民)という言葉を使っています。グローバル前院長を中心にまとめられたミッションステートメントの解説の中でも、World Citizenについて次のように書かれています。

「世界市民とは、学院の創立者ウォルター・R・ランバスのように、他者と対話し共感する能力を身につけ、よりよい世界の創造に向けて責任を担う人々のことです。」

関西学院大学の皆さんが、他者と対話し共感し、より良い世界を創造していくことを心から願っております。
(学長・村田 治)

表紙へ

(坂本 工宜さん)
商学部4年生



準硬式野球部だったが、10月20日に開かれたプロ野球ドラフト会議で、読売ジャイアンツから育成4位で指名された。「部員のみんなと指名の瞬間を迎えられてうれしかった。これからは勝負と気持ちが入りました」と振り返る。

関西学院高等部時代は外野手としてプレーしたが、3年間、ベンチ入りすることはなかった。大学では投手に挑戦したいと考え、出場機会が多いと聞いた準硬式野球部に入部。2年生秋に公式戦初登板を果たすと、3年生の春からはエースとして活躍。最優秀投手賞とベストナインを獲得し、秋には関西選抜チームの一員に選ばれた。その試合では投げた速球が相次いで140km/hを記録し、「プロに行く」と決めた」と話す。

その後は「必ずプロになるという一心で生活した」という。パーソナル

トレーナーを頼んでフォームを磨き、食生活も見直した。野球に支障が出ると思うものは全てやめ、菓子やジュース、酒などは一切口にできなかった。「外食はこの1年間で3回ほど」と話す。4年生春のラストシーズンには、最多勝と最多奪三振で最優秀選手賞を獲得し、9季ぶりのリーグ優勝に貢献した。

「絶対成功させるという執念を持って挑戦し続けることを大切にしてきました。プロでもその気持ちを大切にしたい。まずは支配下登録、そして一軍に定着して、日本一の投手になりたい」と決意は固い。

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

CONTENTS

No. 254

- 1 学長のポケット
表紙人
- 2 特集
世界市民を育む、学びがある。
世界で輝く! KG PEOPLE
- 9 就職の窓
キャリアセンター支援プログラムを
就活に生かそう!
シューカツに勝つ
- 11 ひととひと
- 13 Research & Research
商学部 松本 雄一ゼミ
理工学部 谷水 雅治研究室
- 15 突撃! KG CLUB
文化総部 茶道部
- 17 My favorite KG
イ ハヌルポラさん
(韓国)
Go Global!
山中 謙治さん(国際学部4年生)
- 18 数字でみる関学
交換留学ができる海外協定校数
- 19 Campus News
関学カプセル
KGグルメ
学院通信
- 24 世界の街角から
中国 楊 燦燦さん
- 25 Libraring
2016文庫・新書 貸出ベストランキング
- 26 聖書に聞く
文学部宗教主事
A.ルスターホルツ

特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

世界で輝く! KG PEOPLE

世界を舞台に、あらゆる分野で活躍する関学人。

「外交」「芸術」「研究」「ボランティア」「スポーツ」「留学生」の各分野において
世界で活躍する学生や卒業生に登場いただき、関西学院での学びや現在の活動、
そして今後の展望などについて語っていただきました！

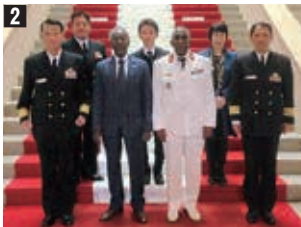
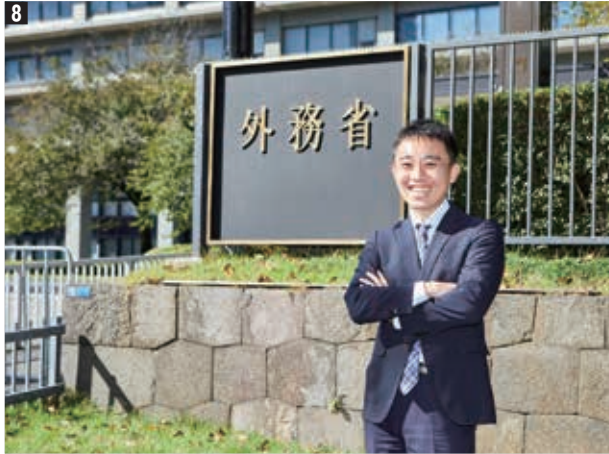


外交

2006年度法学部法律学科卒
長尾 行泰さん
外務省大臣官房人事課



大学での学修をステップアップの場に、 フランス語通訳官としても従事。



1 2007年在外研修。フランス留学にて 2 アデン・シェール・ジブチ海軍司令官訪日。広島・江田島にて 3 カメルーンでのTICADV閣僚級会合。首相府の儀典長と 4 エロー・仏外務・国際開発大臣の首相表敬で通訳 5 日仏首脳会談(2015年10月) 6 柔道大会での通訳 7 仏短期留学先のプザンソンにて 8 外務省の前で

外務省

大臣官房人事課で働いています。ODAの対策やTPP、核不拡散、外国での邦人保護といった個別の業務ではなく、外務省が何を行っているか、何をすべきかを把握し、必要な人員を確保するために、内閣官房や財務省などと協議しています。それには省内の管轄業務を理解する必要があり、外務省全体の業務について考えるには最適な部署です。父親の仕事の関係で15歳から18歳までホンジュラス共和国(中米)に住んでいました。滞在中の1998年10月、ハリケーン「ミッチ」がホンジュラスを直撃。国が機能不全に陥り、自衛隊による初めての国際緊急援助活動をしたことでも知られている大きな災害でした。日本大使館員が現場で通訳したり、大使

がスピーチしたりする姿を目にした時、漠然と国際貢献、国際協力ができる仕事に携わりたいと考えようになりました。高校3年生の時に帰国し、千里国際学園高等部(当時)に編入しました。当時の私はスペイン語が話せましたが、全く別の世界である「法律」に関心を持っていました。進路指導の先生に「『法の理を学ぶ』のであれば、関西学院大学に進んだ方がよい」と助言され、関西学院大学に進学しました。進学後は金銭面で親に負担をかけるためにアルバイトに熱中。2年生になると、学業に支障が出ないよう、徐々にバイトを減らし、大学図書館で勉強するようになりました。良い席を確保しようと、開館前から並んだことも思い出です。そういう日々を続けていると、同じ顔ぶれが

いることに気がつき、「みんなも頑張っているのだから頑張ろう!」と意気込むことができました。第2言語はフランス語を学修。担当の関谷一彦教授からインテンシブ・プログラムを勧められ、2年の夏にフランスへ短期留学しました。約25人で留学したのですが、法学部生だけとしか交流がなかった自分にとって、考え方や学問が異なる他学部の学生と一緒に外国で生活することはとても刺激になり、視野も広がりました。総合大学ならではの醍醐味でした。外務省人事課の業務とは別に、2013年10月からはフランス語の通訳官としても従事しています。大臣や首相の通訳も担当しています。フランス語の勉強は入省後も続けていますが、基礎はインテンシブ・プ

ログラムでの学修があったからこそだと考えています。関西学院大学には、個々人の考えや行動次第でいくらでも新しい経験を積める材料がそろっています。大学をステップアップの場にできる人には在学中はもちろん、卒業後も無限の可能性が広がっているはずです。後輩たちには日々の積み重ねを大切にしながら、新しいフィールドに挑戦してほしいと願っています。

芸術

2002年文学部心理学科(当時)卒

寅貝 真知子さん

写真家



大学で学んだ心理学を生かし、 被写体の気持ちに寄り添い作品制作。



1 心理学科のゼミメンバーと大好きな中央芝生で(前列右から2人目) 2 大学1年生の時に入っていた演劇部サークルの発表会 3 制作の様子。写真の表面を塗って立体感を出していく 4 撮影時の会話中にお客様が自身で気が付かなかった思いが表れた一枚 5 依頼者のリラックスした気持ちと内に秘める思いを作品に表現 6 赤ちゃんへの優しい気持ちを表現 7 8 国際フォトコンテストIPAでの受賞作品 9 伊勢丹新宿店「近未来美術展-DOORS」に出展

大学 卒業後、民間企業での勤務を経てカメラマンになりました。「ローレフォト」という手法を用いて作品を制作しています。「ローレフォト」とは、フランス語で役割の意味である「ローレル」と写真の「フォト」を組み合わせた造語です。被写体をただきれいに撮影するのではなく、その人の気持ちや感情を表現し、その人の励みになれるような作品を制作したいと思案しました。撮影対象者の多くは30代以上の女性です。大半のお客様が結婚や誕生日などの記念に撮影を希望されます。撮影前に「どんな自分になりたいか」「大切な思い出」というようなお客様のバックグラウンドを中心に、1〜2時間かけてヒアリングします。その後、撮影をし、その中からセレクトした写真にパソコン上で色彩や背景

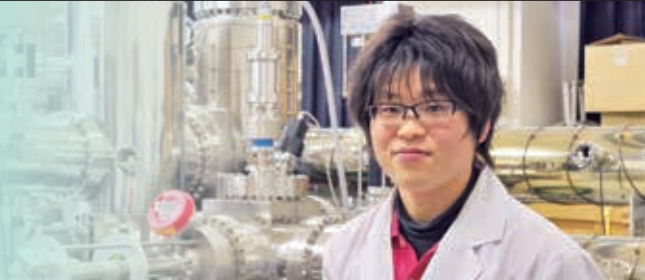
をつけていきます。最後に写真を出力後、重厚感と立体感を表現するために油絵のように樹脂を塗り重ねれば完成です。完成までには約2カ月かかります。「ローレフォト」を制作するには、被写体の気持ちに寄り添うことが最も重要です。被写体が求める写真を理解するためのヒアリングには心理学が必要で、関西学院大学で心理学を学んだことがとても役立っています。心理学の魅力は「人の心が読める」といった靈感のようなものではなく、誰が試みても同じ結果になる科学的な根拠があることです。心理学の授業は私が苦手だった数学・算数の要素もありましたが、授業を通じて考え方や物事に対して新鮮な視点を持つことができました。学生時代に心理学を学んだことは、私の人生や

カメラマンの仕事にとってかけがえないものになりました。人物だけでなく、風景も撮影しています。国内のスポットのほかドイツやイタリアなどのヨーロッパで遺跡などを撮影し、人物写真同様に樹脂を塗って立体感を表す作品に仕上げられています。2015年に大阪から東京へ拠点を移しました。1年かけて制作した作品が2016年10月、ニューヨークで開催された世界最大規模の国際フォトコンテスト「International Photography Awards (IPA)」のプロフェッショナルカテゴリーで、Honorable Mentionを受賞しました。世界162カ国のカメラマンが参加するコンテストだけに受賞できたことはとてもうれしかったです。大学時代は人生で一番楽しい時

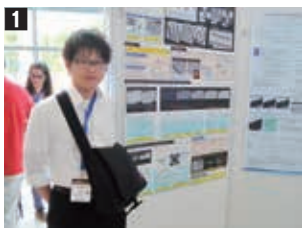
間だと思っていましたが、今考えると社会に出てからワクワクするであろうことについて想像できなかっただけでした。大学時代は楽しい時間を過ごせるスタート地点です。自分が楽しめる、ドキドキすることを見つけ、実際にそれに挑戦することが社会です。今後も他分野の専門家たちとコラボレーションをするなど新しいことに挑戦し、人の励みや希望になること(私が思う写真観)を多くの人に伝えていきたいです。

研究

理工学研究科 博士課程後期課程D3年生
芦田 晃嗣さん
新しい半導体について研究。国際学会で発表多数



社会の役に立ってこそ意味がある。 信念を持って研究を続けたい。



1 フランスでのポスター発表 2 学会で訪れたドイツの街並み 3 研究室独自開発の超高温真空加熱炉 4 後輩学生との実験準備 5 学会で訪れたギリシャの港町 6 大型実験施設での長期測定 7 国際学会での会場の様子 8 電子顕微鏡を使った試料の測定 9 国際学会での質疑応答

SiC (炭化ケイ素) というシリコン (Si) とダイヤモンド (C) の中間的な性質を持つ新しい半導体について研究し、アメリカやドイツ、ギリシャなどで開かれた多くの国際学会で発表してきました。現在、世の中で電力変換器等に使われている主な半導体素子は Si を使ったものですが、この SiC を用いた素子は Si 製のものよりも高性能になるため、さまざまな業界から注目を集めています。簡単に言えば、Si の代わりに SiC を用いた素子を使うことで消費エネルギーを減らすことができるため、大きな省エネ効果が期待できます。すでに、一部のエアコンや鉄道に使用されているほか、電気自動車等への搭載に向けても多くの企業が投資している状況です。

しかし、この SiC は Si に比べて高

額なため、まだ十分に普及しているとは言えません。これは SiC をダイヤモンド粒子で機械的に加工する際、SiC が受けるダメージが欠陥となり、SiC 素子の歩留りを低下させていることが一因でした。また、こうした欠陥を検出すること自体も困難であり、加工法の改善が思うように進んでいませんでした。

そこで私が所属する金子忠昭研究室では、SiC 加工ダメージの高速除去や SiC 表面の原子配列を 1 層単位で厳密に制御する技術を開発し、企業との共同研究を通して素子の歩留り改善に貢献してきました。その中で私は、一般的に用いられる電子顕微鏡を用いて、従来は困難であった SiC 表面の原子配列を「見える化」する技術を確立しました。

これらの成果は、2016年9月に

ギリシャで開かれた SiC に関する世界最大の学会「11th European Conference on Silicon Carbide and Related Materials」で、約 200 人を前に口頭発表しました。M1 年生の時から何度も国際学会には参加してきましたが、今まではポスターを掲示して、興味を持ってそこに集まる人だけに向けて説明するポスター発表ばかりで、会場に集まった全員に英語で語りかける口頭発表は初めてでした。発表では研究の意義が正確に伝わるよう、「今までできなかったこと」と「新たにできるようになったこと」を分かりやすく伝えることを意識しました。発表当日の朝も練習をしたので、個人的にはうまく発表できたと思っています。SiC の開発・量産に携わる海外企業の方からも「感動した」と言葉をかけてもらっ

こともあり、印象に残っています。

研究は社会の役に立ってこそ意味があるものだと思います。まずは、今研究していることを世に広めたい。企業との共同研究を通して、未知の物理現象を究明する面白みと、技術者が社会で担うべき責任を共に感じられる、恵まれた環境で研究ができていると思います。失敗することは多々ありましたが、「失敗の中にこそ宝物がある」という考えを忘れずに、これからも信念を持って研究を続けていこうと思います。

ボランティア

総合政策学部3年生

石川 周平さん

Eco-Habitat 関西学院 代表



笑顔でいると現地の人も笑顔になる。 ボランティアは笑顔から始まる！



1 2 作業風景。現地の人と一緒にセメントを製造し、余分なセメントを壁から取り除く 3 4 チームの集合写真 5 家の贈呈式 6 7 壁面を立てる作業 8 現地の子どもたちと 9 軍手を分け合って作業をした現地の子どもと

住まいの改善・確保そしてコミュニティの問題に取り組むことで貧困の解消を目指す国際NGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン(ハビタット)」の学生支部である「Eco-Habitat関西学院」の代表を務めています。ハビタットが住居建築支援に取り組むアジア各国で家の建築を手伝ったり、東北支援として特産物を関西で販売したりする活動を主にしています。

高校生の時、授業に来られた大学の先生から「Eco-Habitat関西学院」の話聞いたことが始まりでした。それまでもボランティア活動への関心は多少ありましたが、参加には至りませんでした。しかし、小さい頃から建築士になることが夢で、「海外で家を建てる」という活動に引かれ、一気に興

味が湧きました。始める前は、ボランティア活動はどこか敷居の高いものだというイメージがありました。しかし、1年生の時に参加したフィリピンでの活動でそのイメージが一転しました。家を建てることを楽しみに参加した活動でしたが、最も印象に残ったのは現地の子どもたちと交流した時に見た彼らの笑顔でした。海外での活動では家を建設する以外にも、現地の小学校で子どもたちと触れ合う文化交流も行います。そこで感じたことは、ボランティアはとても楽しいということです。私が笑顔でいると、現地の人も笑顔になってくれます。ボランティアはこうした笑顔から始まるのだと感じました。それまで「難しい」「大変」というイメージがあったボランティアですが、それ以上に「楽しい」と実感した活動でした。

「Eco-Habitat関西学院」の理念の中に「夢や希望を持ち笑顔があふれる社会」を目指すという言葉がありますが、まさにそういったボランティアを経験できたと思います。2年生の時にはタイでの活動に参加しました。その時はサブリーダーだったので、1年生の時とは違い、チームをまとめること、ボランティアを無事終えることが求められました。現地でスムーズに活動を進めるためのマネジメント能力や、突発的なトラブルへの対応能力が身についたと思います。

これまでの活動の中で、現地で建てた家の女性が「いつかこの家で商売をしたい」と話していたのを聞いたことがあります。私たちの活動は、家を建て、それを贈れば終わりですが、住む人にとってはその家が新たな人生や夢の始まりになります。私たちが建

築に関わった家から、誰かの新たな人生や夢が始まると思うととてもうれしく幸せに思います。

ボランティアはどこか、とっつきにくいと考えている人が多いかもしれませんが、チャンスはとて多く転がっていますが、誰でも気軽に始めることができると思います。例えば走るのが好きな人はチャリティーマソンに参加するなど、好きなことを通じて参加するのも一つです。

次年度からは、親団体にあたるハビタットで1年間インターンとして活動することが決まりました。今までは団体を運営する、ボランティアに参加するという関わり方でしたが、これからは、同じ志のもとに活動をする学生や、新たにボランティア活動を始めようとする学生の力になればと思っています。

スポーツ

フェンシング部 教育学部4年生

伊東 千尋さん

2016年フェンシング ワールドカップ カタール大会 日本代表選手(エペ種目)



自分から攻撃できる力が必要だと痛感。 もう一度国際大会に出場したい。



1 フェンシング部の部員と 2 練習風景 3 ホテル内にあった大会案内 4 会場の様子からの景色 5 身長の高い相手と試合(手前が伊東さん) 6 試合会場 7 宿泊したドーハ市のホテル

フェンシング

には3種類あって、有効面が胴のみで剣先を用いた突きがポイントとなるフルーレ、全身が有効面でつま先から頭までどこを突いてもポイントとなるエペ、そして、頭を含めた上半身全てが有効面で斬る攻撃も認められるサーブルがあります。全身どこを突いてもいいというシンプルさが面白いと感じ、エペをやっています。

フェンシングと出会ったのは、高校生の時。入学式の部活動紹介で、ユニフォームを着て剣を持つ先輩を見て「カッコいい」と思いました。高校では、団体戦でインターハイに進みましたが、仲の良かった同級生が目の前でインターハイ個人2連覇を達成するなど結果を出していたので、悔しいと思うと同時に、もっと強

くなりたいと思うようになりました。

そんな思いから、大学でもフェンシングを続けましたが、目標にしていた20歳以下の日本代表入りを2年生で逃し、3年生の春には腰のけがで3カ月間プレーできないなど、苦しい時期が続きました。しかし、リハビリを進めながら臨んだ10月の大会では、インカレへの出場権をつかむことができ、「ここで結果を出そう」と奮起しました。インカレでは団体4位、その後の大会でも個人4位と結果を残すことができました。自信を取り戻して迎えた4年生春のリーグ戦では、団体で全勝優勝を果たしました。それ以降の大会でも安定して結果を残すことができ、2016年のワールドカップカタール大会の日本代表選手に選ばれました。

この大会は、世界各国から選手

が集まり、オリンピック選手も多数出場する非常にレベルの高い大会で、予選で6試合を行いました。一度も勝つことができませんでした。6試合のうち3試合で、あと1点取れば勝ちというところまでいきましたが、勝ち切ることができませんでした。私は、相手の攻撃を誘い、その隙を見て攻撃するのが得意なのですが、今回の試合では、攻撃をさせるのではなく、終始、攻撃をされていたため、後手に回ることが多かったです。走ってきて攻撃をする「フレッシュ」という技があるのですが、瞬発力と長い手足を生かした外国人選手のフレッシュは強力で、対応することができませんでした。今回の経験を通して、世界で戦うには、やはり自分から攻撃できる力も必要だと考え、現在は積極的に攻める練習を行っています。

います。海外の雰囲気を知れたことも大きな経験になりました。

卒業後は地元の岡山にあるクラブチームでフェンシングを続ける予定です。社会人になっても時間を見つけて大会に出場し、チャンスがあれば、もう一度こうした国際大会に出たいと思います。

留学生

交換留学生 2010年秋学期在籍

グラディス

Gladys Ngさん (シンガポール国籍)

三井住友銀行シンガポール支店 アジア・太平洋トレジャリー部 企画グループ



勉強、友人との出会い、ホームステイ。 成長やキャリアに良い影響を与えてくれた。



1 会社で旧正月のお祝い 2 3 会社生活 4 日本語授業の先生たちと 5 留学生の友人と宝塚歌劇へ 6 秋学期卒業式。ホストファミリーと 7 結婚披露宴。ホストファミリーと 8 関西学院大学の先生がシンガポールに。シンガポール国立大学から関学大に留学した同窓生と 9 関西学院初等部との交流

関西学院大学

へは2010年の秋学期に半年間、留学しました。その後、シンガポール国立大学を卒業し、三井住友銀行シンガポール支店のアジア・太平洋トレジャリー部の企画グループで働いています。関西学院大学を留学先として選んだ理由は2つありました。1つ目は関西弁に興味があり、関西の大学へ行きたかったから。2つ目は関西学院大学で学んだ友人から、キャンパスがとてもきれいで、日本語を学ぶプログラムが充実していると聞いたからです。留学前に、シンガポールの大学で取れる日本語の授業を全て終えていたので、留学中は比較的レベルの高い日本語の授業を受けていました。その他には、韓国文化や中国文化、日本芸術の歴史

や日本映画についての授業も受けました。

関西学院大学で日本語を学んだことによって、日本語能力試験2級に合格することができました。そのこともあり、現在の仕事に就くことができました。私は、部署の福利厚生や陣営、法令順守についての事務を管理する仕事をしており、日常的に日本語を話し、翻訳することが求められます。今後なるべく長く日本語が使えるように、普段から意識的に日本語を使うように心がけていますし、今では、他の言語を習得したいとも考えています。

勉強以外では、キャンパスの美しさや、たくさんの友人と出会えたことが思い出に残っています。関西学院大学の秋は本当に美しく、毎日キャンパスに行くのが楽しみでした。

友人ともキャンパスの美しさについてよく話していたのを覚えています。大学で出会った友人のうちの数人とは今でも連絡を取り合う中で、シンガポールにも旅行に訪れてくれました。留学を終えた後も、こうして集まることをうれしく思います。また、さまざまな国の人たちと出会えたことで、異なる文化を学び、知識を深めることができました。それによって、違う国の人もスムーズにコミュニケーションが取れるようになり、私自身の成長やキャリアに良い影響を与えていると思います。

ホームステイを経験できたことも良かったです。日本の文化や礼儀マナーを学ぶことができました。日本人の同僚という時などに、その知識がとて役に立っています。ホストファミリーとは今も連絡を取り合っています。

て、帰国後にも日本へ行きましたし、ホストファミリーも2度シンガポールへ来てくれて、私の結婚式にも出席してくれました。留学を通じて得た出会いは、私にとって本当に大切なものです。留学時代に出会った人たちともう一度、関西学院大学で集まることできれば素敵だなと思います。また、もし子どもができれば、私と同じくらい日本と日本の文化を好きになってくれればいいなと思います。

キャリアセンター 支援プログラムを 就活に生かそう!

企業が広報活動を開始する3月が迫ってきました。3年生、M1年生は、いよいよ就職活動本番を迎えます。今号ではキャリアセンターが開催する各種就職セミナーや説明会などの情報を紹介します。情報をチェックして就職活動に生かしましょう。

就職の窓

SRの積極的な活用を!

今年のSRは約30人の4年生が、「3年生にとって一番身近な存在になる」を目標に活動しています。SR相談室はもちろん、普段から気軽にSRを活用してほしいと思います。

SRと聞くと「意識が高い」「就職活動に成功した」といった先輩のイメージを抱く方もいるかもしれません。実際は、「就職活動中にたくさん失敗した」「希望の企業が不採用になった」「就職活動を始める時期に出遅れた」などさまざまな経験をしたメンバーが集まっています。だからこそ、全員が「自分の経験や反省を生かして、後輩の役に立ちたい」と考えており、今さら聞きにくい基本的な質問から、エントリーシートや筆記試験対策などの実力アップまで、一人ひとりに寄り添ったアドバイスができます。

またSRには、幅広い業界や職種の内定者がいます。将来の働き方の不安や悩みにも相談に乗りますし、業界ごとの最新の筆記試験の情報や対策、企業分析、心づもりなども伝えられます。

私は昨年、SRで食品業界に内定した先輩に相談し、たくさんのアドバイスをもらいました。1学年しか変わらないので身近に感じながらも、頼りになる存在でした。絶対に役立つので、ぜひSRを活用してください。

キャリアセンターのプログラムで成長を!

1月から3月の時期は、キャリアセンターのプログラムをたくさん活用しました。特に、集団面接のトレーニングは予約ができる限り参加。プロの講師からの助言が受けられ、しぐさや表情など個人に適した細かな部分も指摘してもらえました。またトレーニングを重ねることで、本番での自信や心の余裕につながりました。どのプログラムも関学生のために用意され、就活本では得られない情報もたくさん。積極的に参加してください。

商学部4年生

長谷川さあやさん

森永乳業株式会社 事務系総合職内定

SR

SR(Student Reporters)・・・4年生の就職内定者が後輩を親身にサポートする組織。自分の経験を生かした就職活動の相談など、先輩だからこそできるサポートを行います。

SR相談室

SRがどんなささいなことでも相談に応じます。就職活動を終えたばかりの先輩たちだからこそ分かってもらえることも多いはず。気軽に相談してください。

実施日

●2月1日(水)～28日(火)の平日 大阪梅田キャンパス

個人面談

経験豊富なキャリアアドバイザーが、自己分析やエントリーシートのアドバイス、筆記試験対策、面接トレーニングなど、さまざまな相談に柔軟に対応します。積極的に活用し、具体的な対策を進めましょう。



実施日

●1月～3月(月)～(土)毎日開催中

西宮上ヶ原・西宮聖和・神戸三田・大阪梅田

キャンパス (西宮聖和とキャンパスは1月の平日のみ)

※「KGキャリアナビ」より、面談日7日前の10時から予約開始。

就職活動直前ガイダンス ～企業情報最前線～

「今、就職活動の準備に何をすべきか」について、各業界の最新動向を交えてお伝えします。これまでのガイダンスに参加していない人は必ず、参加していた人もおさらいを兼ねて参加してください。



実施日

●1月30日(月)

【文系対象】西宮上ヶ原キャンパス

【理工系対象】神戸三田キャンパス

※理工系学生でも、文系職種の就職希望者は、西宮上ヶ原キャンパスのガイダンスに参加してください。

シューカツに勝つ 先輩の就職活動



花王株式会社
服部 裕紀さん
(2015年商学部卒)

現在、男性用化粧品ブランドのサクセスを担当しています。約9割のお客様に認知していただいているブランドを担当することの責任を日々感じながら、業務に進んでいます。仕事は多岐にわたりますが、誰よりもブランドのことを理解して、消費者のことを考え、世の中に提案できるかを常に意識しています。就職活動において、私が大切にしていたことは3つです。

1つ目は「人から見た自分を理解すること」です。自分の強さや弱さを理解しているつもりでも、それを判断するのは周りの人です。就職活動の面接のみならず仕事の中でも、他人から見た自分が周りから評価されます。たくさんの人に「私ってどんな人」なのか、聞いてみてください。それが「本当の自分」だと思います。

2つ目は「情報を吸収する姿勢」です。私は学生から今に至るまで、常にメモを取るクセをつけています。それが私にとって「情報を吸収する手段」だからです。就職活動では、説明会の中で心に響いた社員の一言が、また新たな情報によって上書きされ、結果として忘れてしまう経験を何度もしました。心に響くということは、自分にとっての共感ポイントなので、備忘録として残しておいたほうがいいと思います。また実際に書くことによって記憶にも残ります。結果的にそのメモの内容が、会社への志望動機につながりました。

3つ目は「想いを伝える準備」です。私は大学時代にマーケティングを専攻していたことから、プロのマーケターになるという夢がありました。ただ夢を語るには、パッションだけでなく、ロジックがなければ相手に何を言っても伝わらないことが多いです。時間がかかってもいいので、「想い」の原点を見つめてください。その準備があれば、「誰にも負けない強固な想い」になるはずですよ。

日々の業務で感じることで、就職活動は「社会人になるための姿勢づくり」だと思います。活動のプロセスも、あなたの成長になりますので、思うような結果が出ないときも自信を持って活動を続けてください。応援しています！

学内企業説明会

企業が広報活動を開始する3月から開催します。関学生を積極的に採用したいという意欲のある800以上の企業・団体が「事業内容」や「採用選考プロセス」「求める人材」などを話します。この説明会をきっかけに内定を得た関学生もたくさんいます。



実施日

●3月以降

西宮上ヶ原・神戸三田・大阪梅田キャンパス

※神戸三田キャンパスは理工系職種希望者を対象に実施

※理工系学生でも、文系職種の就職希望者は、西宮上ヶ原・大阪梅田キャンパスの説明会に参加してください。

面接トレーニング

企業の採用面接を熟知した講師が、集団面接とグループディスカッション対策を伝授します。このセミナーを通じて本番さながらの緊張感を体験し、面接の雰囲気慣れしておくことが重要です。現在の自分の力や課題を認識して就職活動に役立てましょう。毎年多くの先輩が活用し、満足度の高いプログラムです。



実施日

●2月～3月

西宮上ヶ原・大阪梅田キャンパス(事前予約制)

※「KGキャリアナビ」より、開催日7日前の10時から予約開始。

業界・仕事研究セミナー

年内の業界研究セミナーに続き、2月は「日本を支える優良トップ企業」「食品業界」や、「公務員」「UIターン就職(地元就職)」「女性の働き方」など、テーマ別にセミナーを多数開催します。就職活動本番の前に、自分に合った働き方を考える機会としてください。



実施日

●2月1日(水)～8日(水) 大阪梅田キャンパス

●2月9日(木)～24日(金) 西宮上ヶ原キャンパス

プロボクサー1年目 感謝の気持ちでリングに立つ



宮本 知彰さん

商学部4年生
アポロボクシングジム所属

昨 年7月にプロボクサーとしてデビュー。これまで3戦連続KO勝利と、注目を集める存在になっている。

「兄がボクシングをやっていたので興味があった」と中学3年生でボクシングを始めた。しかし、同年代でボクシングをしている友人はゼロ、試合や実践練習の相手は年上の選手ばかりで「しんどかった」と言う。高校時代にインターハイ出場を果たしたが、大学入学後は練習に身が入らず、2年生まではほとんど試合に出ることがなかった。転機は3年生の時。自分をかわいがってくれていた先輩がキャプテンになったことから「先輩のために頑張りたい」と奮起。真剣に練習し、関西や

関東各地のジムに通ってプロの選手らとスパリングを繰り返した。結果、その後のリーグ戦で全勝。2014年の全日本選手権に出場し、ベスト8入りを果たした。

引退後はボクシングを辞めるつもりだったが、アポロジム（大阪市淀川区）の会長に「プロにならないのか」と声をかけられ、「無名の自分に目を注いでくれたことが素直にうれしかった」とプロへの挑戦を決めた。

戦う原動力は応援してくれる人への感謝の気持ちだ。「試合前は怖いけど、リングに上がる時、応援に来てくれている人を見ると、負けられないと気持ちが入る。いつかベルトを取って喜んでほしい」と話す。

勉強に、スポーツに、趣味に一。
さまざまな分野で一生意念に頑張るKGビープル。
きらきらと輝く横顔を紹介する。

自立目指すフィリピンの女性団体と アクセサリーを共同製作し販売

日

本や他の国々で出稼ぎ労働者として辛い経験をしてきたフィリピン人女性たちで構成され、フィリピン人女性のエンパワーメントを目指すNGO「バティス・アウエア」の女性たちと、現地でピアスやブレスレットなどのアクセサリーを作り、宝塚市内で販売した。

「バティス・アウエア」を、ゼミの武田文教授と訪れたのは一昨年の8月。約2週間の滞在を通して、さまざまなバックグラウンドを持ちながらも前を向いて生きるフィリピン人女性たちを見て、「力になりたい」とプロジェクトの実施を決めた。「二つの組織として、全員で経済的状況の改善とエンパワーメントに取り組

むべき」と、誰でも簡単にできるアクセサリー作りを思いついた。

昨年10月、再び「バティス・アウエア」を単身で訪問。集まった8人のメンバーと4日間、自らデザインしたアクセサリーを約100個作った。国内各地からやって来た彼女の滞在費や日当は、自分がアルバイトをしたためのお金で支払った。できたアクセサリーは持ち帰り、宝塚市のカフェなどで販売。友人らにも買ってもらう半数以上が売れた。売上金は「バティス・アウエア」に寄付するという。「この活動が、彼女たちにとって経済的自立への第一歩となり、自分らしさや自信を取り戻すきっかけになれば」と話す。

米田 奈央さん

人間福祉学部
4年生



生きる尊さを一枚に ザンビアの少年を撮影し入賞

西谷 廉さん

総合政策学部4年生



昨年10月、国連広報センター等が主催した学生フォトコンテスト「わたしが見た、持続可能な開発目標(SDGs)」で入賞した。アフリカ南部のザンビア滞在中に、井戸から水をくんで家路に就く少年の後ろ姿を捉えた。世界47カ国から集まった600点以上の作品の中から選ばれた。

3年生の時、休学してザンビアの孤児院に住み込みで働いた。上下水道がない現地では、水くみは子どもたちのごく日常の仕事だという。「撮影したのは親しくなった少年の一人。彼がザンビアで生きている、そのことを物語る象徴的な一枚」と語る。

初めてザンビアに行ったのは、2年

生の夏。写真や開発問題に関心があり、写真家と一緒に行く2週間のツアーに参加した。同じ「人間」でありながら、価値観・習慣が違い、全く異なる生き方をしている人たちを目の当たりにして衝撃を受けた。家畜を自分の手でしめて食べる経験や、女性のHIV感染者の声を直接聞くうちに、「生きる」ことに対する意識が変わった。

一方で、人々の健やかで朗らかな生き方に魅了された。「彼らが人間らしく、美しく思えた。それは、生きることの尊さそのものかもしれない。ザンビアで感じたことを今後の自分の人生の道しるべにしていきたい」と前を見つめている。

ひと 人 ひと

タイの移民問題について 日英2カ国語でスピーチし特賞

ドイツサバンジョン・ヨッサワデーさん
国際学部(タイからの交換留学生)



11月20日に神戸(外国)クラブで開かれた「第37回神戸市長杯」英語と日本語によるスピーチコンテスト(主催/神戸クロスカルチュラルセンター)で優勝にあたる特賞を受賞した。

彼らの人柄については実際に交流をしてみないと分からない。移民が与える良い影響に目を向け、ポジティブに向き合おうべきです」と主張した。

来日は昨年9月。「まだまだ苦手」と話す日本語の発音や文法は、ホストファミリーや日本語教育センターの教員と確認し、何度も練習した。当日はホストファミリーが応援に駆けつけ、受賞の瞬間を共に喜んだ。「ホストファミリーから日本語の練習になると参加を勧められましたが、受賞など考えてもいませんでした。本当にびっくりしています」と振り返る。「卒業後は、タイにある日本のホテルなどで経験を積みたので、日本語をもっと勉強したい」と目を輝かせている。



商学部
松本 雄一ゼミ

組織における人材育成をテーマに コミュニティで人が成長する理論を追究

組

織における人材育成をテーマに、人は組織の中でどのように成長していくのか、コミュニティの一つです。その力を組織のどのようなメカニズムが人の成長を支えているのかについて研究しています。

人材育成についてはOJTや研修、自己啓発などさまざまな考え方や方法がありますが、最も効果的なのは組織の内外に学習コミュニティ（実践共同体）を構築し、そこで学びを進めていくことだと考えています。

例えば、ある介護施設では、認知症予防に用いる学習療法を学ぶという目的で学習コミュニティでの活動を始めました。すると、施設内の



松本 雄一 教授

人々の距離が縮まったことで職員がコミュニケーションの重要性を再認識したり、コミュニティの活動がきっかけで他の介護施設との横のつながりが生まれ、交流の幅が広がりました。いくつか、他大学との合同研究などその結果、仕事に対するモチベーションが上がり、若手がリーダーシップを発揮し始めるなど、知識を身につけること以上の効果が期待されています。

果が生まれました。

もちろん、ゼミ活動は学習コミュニティの一つです。その力を入れている、「面白い」活動に「面白く」なると「面白い」と「ためになる」は、本気で学ぶことによって初めて両立できるものだと考えています。また、簡単な課題から始めて、少しずつ難しい課題に挑戦することで学生に成功体験を

先輩に好かれるための後輩力を研究



安居 修平さん
商学部3年生

松本ゼミは、リーダーシップを研究するゼミでありながら、ゼミ長を置かないのが特徴です。ゼミ長を決めないことで、全員が自分の得意な分野で、あるいは状況に応じてリーダーシップを発揮しています。

私は10期生ですが、すでに社会人として活躍している先輩に対して研究発表する「卒業生ゼミナ」は良い経験でした。内容は自分が一から考えた会社の新人研修、目標達成能力や傾聴力といった能力がランダムに決められ、それらの能力は、どのような研修で身につけられるかを考えました。ゼミのテーマの通り、研修は楽しいものを考え、発表時間も聞き手を楽しませることを意識しました。

新たなテーマとして、先輩に好かれるための「後輩力」について研究しています。良好な人間関係を築いていくのに役立つと考えており、今後は論文を作成し他大学に対しても発表する予定です。



理工学部環境・応用化学科
谷水雅治研究室

元素を最新の技術で分析し 過去の情報を把握して未来に生かす

海

底から地表、大気などの地球表層部において、元素がどのように循環しているのかを正確に把握する研究を行っています。

分析対象試料は、水や土、空気中の微粒子などです。空気中の塵を排除した清浄な実験環境(クリーンルーム)で目的元素のみを取り出し、その濃度や同位体比の測定結果から、目的元素がいつどこから、どのぐらいの割合で試料に含まれているのかを解析します。

産業革命以降、人類の文明的な生活の陰で、大量の元素が環境中に排出されています。鉛を例にとると、20世紀初頭にはガソリンの質向上のため鉛の有機化合物が普遍的に添加され、鉛の有害性のために先進国で廃止された1970年代まで、大量の鉛が内燃機関での燃焼を通して大気中に排出されました。排出された鉛は、国ごとにその同位体比が異なるため、堆積物やサンゴの分析により、試料を採取した地点に蓄積した鉛の起源とその時間的変遷を把握できます。この鉛の例や地球温暖化に関連した二酸化炭素

濃度の増加など、環境への配慮より経済成長を優先した結果、人類はさまざまな環境問題に直面していますが、最新の分析技術で過去の情報を正確に把握し、未来への予測へ生かすこの側面があるかもしれません。

同位体を用いた農産物や文化財の産地推定の研究も進めています。同位体比は元素に付けられた指紋のような働きをするため、同じ遺伝子を持つ農産物でも、その生育地の地質に関連して元素の同位体比が異なっており、産地を推定することが可能となります。安全な農作物の物流の確立や文化財の流通経路の把握の一助になると期待しています。

学生たちには自ら動いて研究を進め、新しい知見に至ったときの高揚感を味わってほしいです。



谷水 雅治 教授

地下水中で増加する硝酸性窒素の起源を探る



杉本 直人さん
理工学部4年生

熊本市の地下水の水質調査をしています。地下水中で増加傾向にある硝酸性窒素の起源推定が研究テーマですが、熊本地震の発生に伴い、地震前後の水質変化も研究対象です。

熊本市の水道水源は、阿蘇山西麓地域の降雨が有明海に至るまでに地下に浸透し、自然にろ過された地下水ですが、過剰に摂取すると人体に有害な硝酸性窒素をわずかに含んでいます。熊本市周辺は畜産や野菜栽培が盛んなので、下水以外にも家畜し尿や化学肥料など複数の人為起源の混入源が考えられるため、さまざまな同位体指標を用いて硝酸性窒素の起源推定を行っています。

谷水研究室では、学生ごとに全く別のテーマで研究を進めます。地球環境に関する複数のテーマのうち、私は野外調査があるこの課題を選びました。自分のペースで研究が進められる一方で主体性が強く求められるため、積極性を持って課題に取り組みたいです。

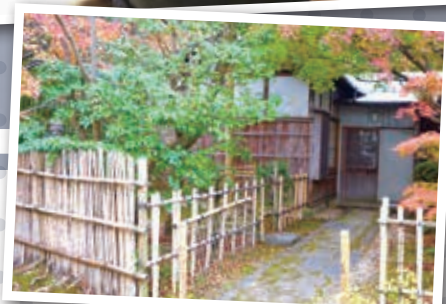
このコーナーでは、KGB 総
部放送局が記事と映像で、
部活動に励む関学生のイキ
イキとした姿をお届けします!



文化総部 茶道部

突撃!
KG CLUB
by KGB

文化総部茶道部は1946年に発足し、2016
年度に70周年を迎え11月には記念茶会も開
かれました。普段はA号館の奥にある恵風庵で
活動を行っています。関西学院大学の中にある
“和”を感じてください!



インタビュー

国際学部2年生 上田 彩加さん
法学部3年生 岩崎 慧子さん
法学部3年生 中路 翠さん



Q.練習内容は？

お茶会に向けて茶室でお作法やお点前を学んでいます。
また新月祭でもお茶会があり、練習の成果を披露しました。

Q.茶道部に入って良かったことは？

今まで知らなかった茶道の作法を学べたこと、お茶会に向けて部員全員で頑張れたことです。

Q.お薦めのお茶は？

「綾鷹」です(笑)。理由はお稽古の中で昔から上林春松本店のお茶を使っており、綾鷹も上林さんのお茶なのでお薦めです!!



練習日
火曜、水曜、木曜
の空きコマ2つ

活動場所
恵風庵



KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています!興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください!

HP→<http://www.everyday-kgb.com>
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>

取材レポート

茶道部に突撃!インタビューをはじめ、お稽古の様子など普段の茶道部に迫ります!!ぜひ、ご覧ください!!

動画もCHECK!

↓映像はこちらから





イ ハヌルボラ
LEE HANEULBORA さん
(韓南大学 交換留学)
韓国出身



目標を持ち 挑戦した分だけ 学ぶことが できた

↓留学先での最初のオリエンテーションで

テキサス州にある南メソジスト大学で約1年間の交換留学を終え、昨年5月に帰国しました。高校1年生の時にもテキサス州で交換留学を経験しましたが、「人に頼るばかりの留学だった」という悔しい思いがあり、「もう一度テキサス州に行こう」と今回の留学を決めました。



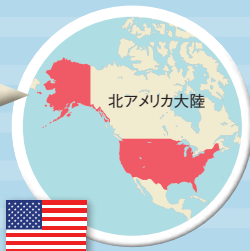
「新しい分野への挑戦」「英語力の向上」「人との縁を大切にしよう」という3つの目標を持って留学に臨みました。まず、新しい分野への挑戦として初めて心理学を学びました。内容そのものが難しい上に授業は英語で行われるため、教授や友人に助けをもらいながら、図書館で夜遅くまで勉強するという生活が続きました。英語については、授業を受けるだけでも勉強になるのですが、ゲストスピーカーを毎週招待する大学のイベントに積極的に足を運び、スピーチの仕方や言い回しについても学びました。留学を通じて出会った人との縁を大切にしたいと思い、週末には高校時代にお世話になったホストファミリーに会いに行くことが多かったです。ホストファミリーだけでなく、たくさんの人に支えられて実現した留学でしたので、常に感謝の気持ちがありました。

私にとって南メソジスト大学は、求めれば与えられる場所であり、手に入れようと挑戦した分だけ学ぶことができました。今後、恥じず恐れず挑戦することで成長していきたいと思っています。



↑帰国前に友人が開いてくれたサプライズパーティー(真ん中が山中さん)

交換留学(南メソジスト大学)
山中 謙治さん(国際学部4年生)
派遣国 ▼ 米国



穏やかに話が進む 日本の小説に のめりこむ

↓夏休みに友達と京都旅行



— 関西学院大学に留学した理由は。

小さい頃から日本のドラマやジブリアニメを見るのが多く、日本の文化と日本語に興味がありました。最初はドラマやアニメを見て独学で学んでいましたが、高校に入ってから本格的に勉強を始めました。日本語を学んでいるからには、日本で日本語を使って生活したいという思いがあり、留学を決めました。また、韓国で経験した日本語通訳のアルバイトで、思うように通訳ができなかったことも日本で学びたいと強く思うようになった理由の一つです。大学にいた日本人の先生に留学先を相談すると関西学院大学を薦めてくださったので、関西学院大学で学ぶことに決めました。

— 今、どのようなことを勉強していますか。

日本語と文学の勉強に力を入れています。韓国人は、はっきりとものを言うことが多いですが、日本人は言いたいことをオブラートに包んで伝えることが多いです。そのような違いが小説にも表れていて、事件などが次々と起きて話が進んでいく海外の小説に対して、日本の小説は穏やかに話が進んでいたり、日常の描写が多かったりします。日本の小説のそのような雰囲気が好きで、のめりこんでしまいます。今後は、作家を一人決めてその人の小説を全て読んでみたいと思っています。

— 関西学院大学の好きなところは。

外国人が多く、いろいろな国の人と友達になれることが魅力的です。今学期は、パラオやノルウェーから来た留学生とも出会いました。もちろん日本人の友達も多くできて、一緒に梅田や京都へ出かけたり、学園祭を見て回ったりしました。勉強についても、

韓国の大学では広く浅く学ぶのが一般的で、大学院へ進まないという決まらぬものですが、ここでは一つのことについて深く学ぶことができるので、とても面白いです。

— 日本での生活はどうですか。

日本人は余裕があるように思います。外を歩くこと散歩を楽しんでいる人がいますし、大阪に出かけたときはいわゆる大阪のおばちゃんから給をいただきました。学生はサークルに所属している人が多く、勉強以外の時間も充実させていると思います。韓国では、皆急いでいてこのような余裕を感じることはありませんし、サークルに入る人はいても、日本のように活発に活動することはありません。

— 好きな日本語を教えてください。

「想い」です。「思い」とほとんど同じ意味を持ちますが、頭に浮かべるという意味が強い。「想い」に対して、「想い」は心に浮かべるという意味が強いです。同じような意味を持つ言葉なのに、漢字が変わるだけで受ける印象が大きく異なることがすごく印象的でした。「想い」の中にさまざまな気持ちを込めることができますし、読み手にもそれを想像させることができると思います。とてもロマンチックで魅力的な言葉です。



数字でみる 関学

今回は、世界各国にある交換留学可能な協定校の数を紹介します。たくさんの協定校を持つ関西学院大学。興味のある学校を探してみましょう！

交換留学ができる 海外協定校数

※数字は2016年9月に国際連携機構が発行した「国際教育・教育プログラム募集要項 2016VolumeII」から抜粋。

ヨーロッパ

計**38**校

デンマーク	2	アイルランド	1	スペイン	1
フィンランド	2	ラトビア	1	スウェーデン	2
フランス	6	オランダ	3	イギリス	6
ドイツ	8	ノルウェー	2	トルコ	1
アイスランド	1	ポーランド	2		



スターリング大学(イギリス) リオン政治学院(フランス) ルール・ボフム大学(ドイツ)

北中南アメリカ

計**42**校

カナダ	12	ブラジル	2
アメリカ	27	メキシコ	1



サンパウロ大学(ブラジル) トロント/ビクトリア大学(カナダ) 南メソヂスト大学(アメリカ)



合計**131**校

アジア・オセアニア

計**51**校

中国	5	マレーシア	2	ベトナム	1
香港	2	フィリピン	1	オーストラリア	10
マカオ	1	シンガポール	3	ニュージーランド	1
インドネシア	2	台湾	7		
韓国	12	タイ	4		



バジャジャラン大学(インドネシア) 西オーストラリア大学(オーストラリア) 南洋理工大學(シンガポール)

交換留学ができる協定校は今後も増えていく予定です。国際教育・協力センターが発信する情報(国際教育・協力センターウェブサイト/メールマガジン“GO GLOBAL”/掲示板)をこまめにチェックしましょう！

サッカー部に西宮市民文化賞 大学タイトル4冠獲得で

「平成28(2016)年度西宮市民文化賞贈呈式」が11月3日、西宮神社会館であり、サッカー部が受賞しました。

サッカー部は1918年に創部以来、長年にわたり大学サッカー界の第一線で活躍し、各種大会で数々の輝かしい成績を収めてきました。2015年度には関西学生サッカー選手権大会、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント、関西学生サッカーリーグ、全

日本大学サッカー選手権大会で、史上初となる単独での大学タイトル4冠を達成。市民に夢と感動を与え、西宮市のスポーツ推進と西宮の知名度の向上に大きく寄与したことが評価されました。

西宮市民文化賞は西宮市が毎年、学術・芸術・体育・社会事業・生活文化等に功績があった個人および団体に贈られます。本年度は、1個人3団体が受賞しました



フェンシング部が男子エペ団体で 関西制覇しインカレベスト8

「第66回関西学生フェンシング選手権大会」最終日が10月23日、京都府大山崎町体育館で開催され、フェンシング部が男子エペ団体戦で優勝しました。

最終日、シード権を得た関西学院大学は3回戦の同志社大学戦から出場しました。40-40の大接戦になりますが、一本勝負をアンカーの野田遼介・男子エペリーダー(商学部3年生)が冷静に決め、準決勝にこまを進めました。準決勝の龍谷大学戦も落ち着いた試合運びで、45-32で勝利しました。近畿大学との決勝戦は一進一退の攻防が続き、



28-28で一本勝負に突入。3回戦同様、野田・男子エペリーダーが勝負を制し、優勝をつかみました。

11月に開かれた全日本学生選手権大会(インカレ)では初戦となった2回戦で立教大学に45-43と勝利しますが、3回戦で早稲田大学に29-45で敗れベスト8となりました。

石淵順也・商学部教授が 日本マーケティング学会で ベストペーパー賞を受賞

石淵順也・商学部教授が10月16日、リーガロイヤルホテル東京で開催された日本マーケティング学会のマーケティングジャーナル2016授賞式で、最も優れた論文1編に贈られるベストペーパー賞を受賞しました。同賞は、2015年度中に学会誌「マーケティングジャーナル」35巻第1〜4号に掲載された総論文数22編の中から選ばれました。

石淵教授の論文は「店舗内の快感情は衝動購買をさせるだけか」。心理学や小売店舗での現地調査など、幅広い手法を用いて分析しています。

小売店舗内での楽しい気持ち(快感情)が、衝動購買(来店前に購入予定がなかった商品の購入)を生じさせることは既存研究で知られていましたが、受賞論文では、楽しい気持ちにより消費者が創造的になり、買わなければいけなかった商品を店頭で思い出して購買を行う、購入した商品との関連を見いださるる購

買を行うなどの「創造的購買」も生じやすくなることが明らかにされました。また、衝動購買よりも、創造的購買を行える小売店舗に消費者は長期的に来店する傾向があることも分かりました。

石淵教授は「『感情的になる』など良い意味で使われることが少ない『感情』ですが、心理学分野では、快感情は人を創造的にすることが指摘されています。本研究では、その効果が店舗内でも生じており、消費者の店舗内行動や店舗選択行動に影響していることが分かりました。感情と消費者行動の関係性を明らかにし、企業と消費者の双方にとってより良いマーケティング活動のあり方を研究していきます」と話しています。

【受賞論文】

「店舗内の快感情は衝動購買をさせるだけか」「マーケティングジャーナル」35巻4号(通巻第140号)、27-51、2016年3月。

バスケットボール部男子が 18年ぶりリーグV、インカレでは8強

「平成28年度関西学生バスケットボールリーグ戦」の1部リーグ第18戦(最終戦)が10月23日、大阪市の東淀川体育館で行われ、バスケットボール部男子が天理大学に54-53で勝利し、通算16勝2敗で18年ぶり14回目のリーグ優勝に輝き、全日本大学選手権大会(インカレ)の出場を決めました。

インカレでは、1回戦で香川大学に97-66、2回戦は明治



大学に73-69で勝利しますが、準々決勝で専修大学に敗れました。その後行われた順位決定戦の結果、8位となり目標としていたインカレベスト8を達成しました。



メルケル首相訪問など 独でのインターンシップ活動を報告



ドイツの連邦議会で2週間
にわたってインターンシップを
経験してきた関西学院大学
の学生3人が11月11日、村
田治・学長に活動の様子を報
告しました。学生たちは10月
15日から29日まで議会活動
を視察したり、連邦議会議員
らと意見交換したりし、18日
にはメルケル首相への表敬訪
問も行いました。

報告会では、「難民問題に
対して認識が変わった」「技
術面などでの日独の関係の深
さを知ることができた」「議会

の見学にはドイツの学生がた
くさん来ており、政治への関
心の高さがうかがえた」「国
を代表して外交に従事してい
る方々の真剣な姿を間近で見
られて、自分ももっと勉強し
ようと思った」など学生は次
々と感じてきたことを話しま
した。

今回のインターンシップは、
3月に関西学院大学で講演を
したCDU/CSU議員団の院
内総務、フォルカー・カウダー
氏から学生をインターンシッ
プとして受け入れると提案が
あったことで実現しました。

村田治・経済学部教授を 学長に再任

関西学院大学は11月17
日、任期満了に伴う次期学長
選挙を行い、村田治・経済学
部教授(マクロ経済学、景気
循環論)を選出しました。再任
で、任期は2017年4月1日
から2020年3月31日までの3年間。



シャトルバスの利用料金400円に改定

2017年4月1日から、シャ
トルバスの利用料金が300円
から400円になります。改定に
合わせて現行チケットと色を変
えた新料金チケットを販売し
ます。現行のチケットは2017
年度から利用できませんので、次年度

分のチケットを購入しないよ
うに注意してください。

現行チケットについてのみ、
1月6日～3月31日の期間、西
宮上ヶ原、神戸三田各キャン
パスのチケット取扱店(生協)
で払い戻しが可能です。

商学部・石淵ゼミと大丸梅田店が ハロウィンをテーマに商品開発

マーケティング
リサーチ、消費
者行動論を専門
とする商学部の
石淵順也教授
のゼミ生が、産
学協同企画とし
て大丸梅田店と
連携し、スイーツ、
総菜、パン、レス
トランメニューなどの商品を開
発しました。テーマは「『ドキ
ドキ』『かわいい』ハロウィン」で、
10月12日から31日まで発売。
おばけがデザインされたお寿
司やパン、悪魔の足をイメージ
したタッパル(韓国料理)、目
玉をデザインしたケーキなど斬
新な商品は、新聞やテレビ等
にも取り上げられ、ハロウィン
関連商品では前年の1.7倍
の売り上げになりました。

ゼミ生は、2016年度春学
期から活動を開始。店頭でイ
ンタビュー調査とアンケート調
査を実施し、調査結果を基に、
「ドキドキ」「かわいい」と感じ
てもらえるハロウィン商品を具



体的に考案。試行錯誤を続
け、ユニークなアイデアであり
ながら、調査に基づいた「売れ
る」商品を開発しました。

発売期間中、商品の売れ
行きや消費者の反応等を学
ぶため店頭販売も実施。大
丸・人材教育部門の販売研
修を受け、6日間、ハロウィン
の仮装で行いました。「商品
の内容を簡潔に伝えることの
重要性や、目を合わせながら
説明した方が購買につながる
頻度が高まるなど、店頭に
立って初めて気づく消費
者の特徴や行動のパターンな
どが学べた」など店頭でさま
ざまな経験をしました。

関西学院グリークラブが 全日本合唱コンクールで最高賞受賞



「第69回全日本合唱コン
クール全国大会」(全日本合
唱連盟、朝日新聞社主催)
が11月19日に鳥取市とりぎ
ん文化会館で開かれ、関西
学院グリークラブが大学ユ一

ス合唱の部で金賞ならびに
部門最高賞に当たる「文部
科学大臣賞」を受賞しました。
関西学院グリークラブの金賞
受賞は、7年連続17回目とな
ります。



尾崎幸洋・理工学部教授がヤギェウォ大学の名誉学位を受章

尾崎幸洋・理工学部教授が10月20日、ポーランドのヤギェウォ大学(Jagiellonia University)の名誉学位(Doctor Honoris Causa)を受章しました。分子分光学の発展に対する顕著な貢献とポーランドとの30年にわたる交流が讃えられました。



者やローマ教皇のヨハネパウロ2世、映画監督のアンジェイ・ワイダ氏など、世界の著名な学者や文化人が受章している極めて価値のあるものです。

尾崎教授は「大変光栄に思います。今後も分子分光学の世界的研究拠点となることを目指していきたい」と語っています。

ヤギェウォ大学はドイツを含む中欧、東欧で最も古い大学の一つで、天文学者コペルニクスの母校としても知られています。同大学の名誉学位は、キューリー夫妻をはじめ化学者のポーリング、物理学者のプリゴジンら12人のノーベル賞学

次期学部長、研究科長、研究科委員長を選出

関西学院大学、大学院が選出されました。任期は2017年度学部長、研究科長、および研究科委員長 2017年4月1日～2019年3月31日。

【神学部長】中道基夫・神学部教授(実践神学)【文学部長】嶺秀樹・文学部教授(哲学、倫理学、ドイツ観念論)【法学部長】岡野祐子・法学部教授(国際私法)【総合政策学部長】細見和志・総合政策学部教授(哲学・倫理学)【経済学部長】前田高志・経済学部教授(地方分権、自治体経営、行財政改革、税制改革)【教育学部長】今津屋直子・教育学部教授(家庭科教育、食育、調理科学)【理工学部長】水木純一郎・理工学部教授(構造物性、放射光科学)【経営戦略研究科長】佐藤善信・経営戦略経営科教授(マーケティング)【言語コミュニケーション文化研究科委員長】増永俊一・経済学部教授、言語コミュニケーション文化研究科教授(アメリカ文学・文化)

人間福祉学部・山本ゼミ生が西宮市長と教育面談

人間福祉学部の山本隆教授のゼミ生が11月15日、西宮市プレラ会館4階で今村岳司・西宮市長と面談しました。

山本ゼミでは昨年4月から西宮市の委託事業「子どもの学習支援」を受けて、毎週火曜日と金曜日に学習会を行っています。この事業は教育環境に恵まれない中学生(現在は3年生のみ)に対して、宿題を中心とした個別指導を行うものです。

この日は、午後6時から、代



表の渡辺晴虎さん(3年生)から今村市長に事業の中間報告があり、市長が学生たちへの感謝の気持ちを表わしつつ、独自の教育観を述べました。

ラクロス部女子が22年ぶり日本一

全日本大学選手権とクラブ選手権の1、2位が出場し真の日本一を決める「第27回全日本ラクロス選手権大会決勝」が12月18日、東京都江戸川陸上競技場であり、ラクロス部女子が明治大学に延長戦の末、5-4で勝利し、22年ぶりの日本一を達成しました。ラクロス部女子は、関西学生リーグ、全日本大学選手権、全日本選手権の全てのタイトルを制し、創部初の3冠を達成しました。



関西学院大学は開始2分に先制するも、その後、立て続けに得点を許し、1-3で前半を折り返します。後半も守りの時間が続きますが、G末澤

奈々選手(商学部4年生)が好セーブを連発し、ゴールを死守。守備からリズムをつくり、同点に追いつきます。延長戦では、パスを受けたAT成地夏美主将(法学部4年生)が技ありのミドルシュート。ゴールとともに会場が沸き、劇的な幕切れとなりました。

関学カプセル...32



も欠けることがない。主は私を青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる(『旧約聖書』詩編23編)という言葉がある。疲れたときは中央芝生で休みをとる羊になることができる、という意味もこの中央芝生には込められている。

中央芝生

「疲れた羊が 休みをとる緑の原」

西宮上ヶ原キャンパスの特徴の一つである緑豊かな中央芝生。周囲およそ300メートルの長円形で、オープンスペースとして学生や教職員さらには地域住民ら、さまざまな人に活用されている。時計台に向かって上り勾配になっているため、正門からは、時計台と甲山が自然と目に入るようになっている。さらに中央芝生の東西の中心線が正門から時計台を貫く軸線となっており、その南北へ左右対称に配置された校舎がキャンパスに秩序と美しさを与えている。聖書には「主は羊飼い、私には何も欠けることがない。主は私を青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる(『旧約聖書』詩編23編)」という言葉がある。疲れたときは中央芝生で休みをとる羊になることができる、という意味もこの中央芝生には込められている。

ハンズオン・ラーニング関連科目 PBL特別演習「福島から原発を考える」が新設

原子力を含むエネルギー問題の今後を考えるPBL特別演習001「福島から原発を考える(担当:村尾信尚教授)」が秋学期に新設されました。1年生～4年生の計25人が、隔週土曜日に開かれる集中講座を受講。福島での原発事故の実態の現地実習や、電力エネルギー政策の専門家によるレクチャーやグループワークを通じて、エネルギー問題を多面的に調査・検討し、最終日には政策提言しました。

10月29日と30日には、東京電力福島第一原子力発電所をはじめ東日本大震災の被災地を巡る2日間のフィールドワークが行われました。福島県の大熊町～双葉町にある東京電力福島第一原発や富岡町を視察し、そこで働く人や住民の話を聞きました。

3年生の女子学生は「授業を通して他人ごとだった“福島”が同じ日本人として自分のこととして考えられるようになりました」と言います。担当した村尾教授は「短い時間だったが福島に来なければ分からないことが多くありました。今後、エネルギー問題を考える上で、関西にいる自分たちに何ができるのかを考えて行動に移してほしい」と振り返りました。

2014年から始まった時計台プロジェクトは、12月17日と18日、西宮上ヶ原キャンパスで開催されました。3回目となった今回のテーマは「クリスマス」。国の有形登録文化財でもある時計台を背景に、キリストの降誕を表現した映像を約40分間、投影しました。学生団体の関西学院交響楽団による音楽を交え、来場者が自分のスマートフォンを使って参加できる「インタラクティブプロジェクト」も行いました。

時計台プロジェクト 西宮上ヶ原キャンパスで開催



関西学院大学では、アクティブラーニングの推進を重要項目の一つとして全学的に取り組んでおり、このイベントはその一環です。理系・文系の枠を超えて有志の学生チーム(学生実行委員会)が映像制作から運営まで行うPBL(Project Based Learning)の成果を披露する機会にもなっています。

関西学院大学では、アクティブラーニングの推進を重要項目の一つとして全学的に取り組んでおり、このイベントはその一環です。理系・文系の枠を超えて有志の学生チーム(学生実行委員会)が映像制作から運営まで行うPBL(Project Based Learning)の成果を披露する機会にもなっています。

2014年から始まった時計台プロジェクトは、12月17日と18日、西宮上ヶ原キャンパスで開催されました。3回目となった今回のテーマは「クリスマス」。国の有形登録文化財でもある時計台を背景に、キリストの降誕を表現した映像を約40分間、投影しました。学生団体の関西学院交響楽団による音楽を交え、来場者が自分のスマートフォンを使って参加できる「インタラクティブプロジェクト」も行いました。



熊本地震の被災地でボランティア 3回目は仮設住宅で交流

関西学院大学の学生が11月11日から14日まで、熊本地震の被災地でボランティア活動を行いました。参加したのは有志学生38人と教職員3人。関西学院大学ヒューマン・サービス支援室が実施しているもので、7月、8月に続き、3回目です。



期間中は、被害の大きい益城町の2つの仮設住宅で活動。子どもたちの遊び場や茶話会の設置、ハンドアロマの提供、現地の郷土料理である「だご汁」などの調理や配布、冬物衣料チャリティー配布会の手伝いなどを行いました。また被災者の方に寄り添うため、世間話をしたり、不安や悩みを聞いたり、積極的に交流も深めました。

活動を通じて学生は「仮設住宅で出会った方々ともう一度会いたいの、今後もボランティアを続けたい」「報道で目にする機会は減っているけど、まだまだ復興できていない。今後も被災地のことを考え続けたい」などと振り返りました。同ボランティアは今後も継続していく予定で、次は2月に実施します。

KG★グルメ

BIG PAPA (西宮上ヶ原キャンパス)

白身魚セット

白身魚セットの魅力は何と言ってもその値段!白身魚のフライ、キャベツの千切り、みそ汁、冷ややっこがついて120円!まさに「学生の味方」なメニューです。

フライは食べ応えがあり、みそ汁は冷えた体を芯から温めてくれます。冷ややっこキャベツで気になる栄養バランスもカバー。ライスともう1品を加えても400円前後で、おなかも財布も大満足!(写真は白身魚セットとMライス)



学院通信

関西学院千里国際中等部、高等部(SIS)と関西学院大阪インターナショナルスクール(OIS)は11月22日、千里国際キャンパスの体育館でプレゼンテーション大会を開催しました。昨年度までは、授業の空き時間を利用してSISの生徒のみが参加していましたが、本年度はOISの生徒が発表に加わりました。午前で授業を切り上げたSISの全生徒約500人が、SISとOISの生徒計4人と、「平和学」の授業を受講する生徒たちのグループの発表に聴き入りました。

「どうして日本人の宗教観はアメリカ人から疑問視されるのか」をテーマに発表した酒井実希さん(SIS11年生)は「日本人の宗教観は複雑で奥が深く、調べれば調べるほど難しく感じました。将来、仕事でも大勢の人の前で話すことがあると思うので良い経験になりました」と笑顔で話しました。

体育館での発表が終わった後は、中等部と高等部に分かれてポスター発表が行われました。研究テーマは「ドイツと日本の平和教育の違い」「空き家問題対策」などさまざまで、生徒たちは自分の研究について真剣に説明していました。大会のポスターセッションを担当した津高絵美SGH主任は「研究発表を通じて、学校という社会に貢献する生徒たちを心強く感じました。今回の経験から、少しでも多くの生徒がライフワークとしての研究の面白さを感じてくれればうれしいです」と話しました。



OISの生徒が初の研究発表

アメリカンフットボール部が2年ぶり28回目の学生日本一

アメリカンフットボール部ファイターズが12月18日、阪神甲子園球場で開催された「第71回毎日甲子園ボウル(全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝戦)」で早稲田大学ビッグベアーズに31-14で勝利し、2年ぶり28回目の優勝を達成しました。

続いて1月3日、東京ドームで開催された「日本選手権・第70回ライスボウル」では、



社会人王者の富士通フロンティアーズと対戦。関西学院大学は最後まで堂々とした戦いを見せますが、流れをつかむことができず13-30で敗北しました。

研究成果を社会に還元するため理工学部が高校生を対象にフォーラム

理工学部は11月26日、高校生を対象にした「SCI-TECH RESEARCH FORUM(サイテックリサーチフォーラム)2016」を開催しました。このフォーラムは本年度が2回目、研究成果を社会に還元するのが目的です。

近畿圏の高校を中心に全国から17高校162人の高校生が参加。午前中は理工学部生と大学院生がポスターによる研究発表を行い、高校生たちは熱心に質問を投げかけていました。午後は研究室見学を実施。教員や大学生が大学で行われて



いる最先端の研究や研究室での生活などを紹介しました。

その後、高校生による「課題研究の中間発表」が行われ、大学生・大学院生、教授陣らが高校生の発表に耳を傾け、研究に対するアドバイスや今後の展望などを話し合っていました。

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「ファイターズマグカップ」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2017年3月29日※。当選は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



スマートフォン



パソコン URL ↓

<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>



世界の街角から

People's Republic of China

在中国日本国大使館

楊 燦燦さん

(2014年大学院言語コミュニケーション文化研究科博士前期課程修了)

※北京第二外国语学院とのダブルディグリープログラムで2年間留学



邦人保護や司法交流を通じ 中日の相互理解に貢献

2 007年から中国で日本語を勉強し始めましたが、

関西学院大学での留学経験がなければ、今の仕事には出合っていないかもしれません。私が日本への留学を決めた理由は、日本が教科書で学んだ通りの国なのかを確かめたかったからです。

日本で実際に勉強、生活して初めて、国際交流の大切さを知りました。

「中国では、〇〇はありますか」とよく聞かれたことが、忘れられません。最初は、なぜこれぐらいのこと

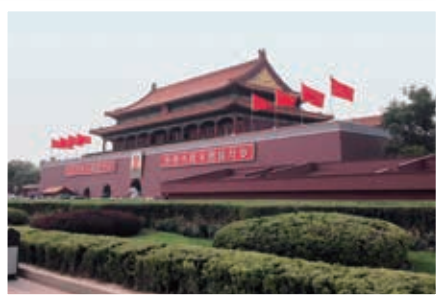
知らないのだろうと思っていたのですが、だんだんと、実際に交流しなければ、他国に対する理解はメディアが報道した情報にしか過ぎないことに気づきました。中には、中国ではまだガスが普及していないと誤解している人もいて、中国と日本は隣国であるにもかかわらず、まだまだ相互理解が進んでいないなと悔しい思いも経験しました。この経験から、卒業後は、中日交流に貢献する仕事をしようと思心しました。

北京に戻ってから、在中国日本国大使館での就職が決まり、邦人保護・中日司法交流関係の業務を担当しています。日々、北京などの大使館の管轄地域で、困っている方や違法行為により逮捕された方の支援に携わっています。仕事とはいえ、刑務所

↓中国国際貿易センター



に行くのはあまり気が進みませんが、「ありがとう」の一言で次もまた全力で取り組もうと意欲が湧きます。近年、中国の司法改革が盛んに行われており、中日両国の法律家も交流を重要視しています。大使館が関わる交流はごく一部ではありますが、交流を通じて両国の法制度の違いに気づき、もっと交流しなければとあらためて考えることができました。



↑北京の観光地の一つ、天安門

人間同士であれ、国同士であれ、互いに理解し合わないとうまくいきませんが、相手のことを少しでも理解すると、もっと知りたくなるものだと思います。これこそ、国際交流の醍醐味ではないでしょうか。

協定校紹介

People's Republic of China

吉林大学 Jilin University

1946年に設立された中国教育部直属の国家重点大学の一つ。2000年以降5つの大学と合併し、現在は13の学問分野を提供する中国屈指の名門総合大学で、多くの著名人や政治家を輩出しています。

中国東北地区吉林省の省都・長春市に位置し、広大なキャンパスに、6万9500人の全日制の学生が学んでいます。長春市で話される中国語は標準語に近いので、留学生が中国語を学ぶのに適した環境が整っています。図書館には743万冊もの蔵書があり、ユネスコや世界銀行等の図書館にも指定されています。

同大学は関西学院大学が協定を結んだ最初の中国の大学で、1982年の協定締結以降、両大学合わせて300人を超える教職員が相互に訪問し、1989年から中国語研修が実施され、交換留学も活発に行われています。





大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の新刊情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

Libraring

2016文庫・新書 貸出ベストランキング

(2016年1月～10月集計結果)

両キャンパスとも、人気作家の映像化された作品がランクイン！

東野圭吾はドラマ化もされた「ガリレオ」シリーズや「秘密」「手紙」なども上位につけています。他には、伊坂幸太郎、村上春樹、宮部みゆきなどの名前が。ランキングの多くを新潮文庫、文春文庫が占める中、新書では、「仕事と家族／日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか」(筒井淳也・中公新書)や、「カーニヴァル化する社会」(鈴木謙介・講談社現代新書)がランクインしています。

西宮上ヶ原キャンパス

- 1 「レインツリーの国」有川浩
- 2 「予知夢」東野圭吾
- 2 「レイクサイド」東野圭吾

神戸三田キャンパス

- 1 「何者」朝井リョウ
- 2 「母性」湊かなえ
- 3 「四つの署名」コナン・ドイル

この春、卒業する皆さんへ

春からの新生活の準備にお忙しいところですが、大学図書館からのお願いです。まだ、借りている図書・資料をお持ちの方は、卒業までに必ず返却をお願いします。(返却期限が過ぎている本は大至急!!) 図書館の本は、みんなの貴重な財産です。よろしくをお願いします。



教職員の新刊

保健と健康の心理学

ポジティブヘルスの実現
大竹恵子文学部教授編著
ナカニシヤ出版

社会心理学概論

大竹恵子文学部教授・三浦麻子文学部教授分担執筆
ナカニシヤ出版

『太平記』をとらえる

第三巻
北村昌幸文学部教授分担執筆
笠間書院

フランス現象学の現在

米虫正巳文学部教授編
法政大学出版局

海のリテラシー

北大西洋海域の「海民」の世界史
田中まぐ文学部教授共編著、田中正孝文学部教授分担執筆
創元社

プロ野球「熱狂」の経営科学

ファン心理とスポーツビジネス
三浦麻子文学部教授共編
東京大学出版会

Shrinkage Regression Estimators and Their Feasibilities

地道正行商学部教授著
関西学院大学出版会

持続可能な地域福祉のデザイン

循環型地域社会の創造
牧里毎治人間福祉学部教授共編著
ミネルヴァ書房

みらいの里山づくり

植物流工場からオーダーメイド野菜が届く
畑祥雄総合政策学部教授共著
関西学院大学出版会

Hydrogen Energy Engineering

A Japanese Perspective
小倉鉄平理工学部准教授共編
Springer

代数曲線入門

増田佳代理工学部教授共著
共立出版

大学におけるアクティブラーニングの現在

学生主体型授業実践集
時任隼平等教育推進センター専任講師分担執筆
ナカニシヤ出版

マスメディアの中の数学

小説・ドラマ・映画・漫画・アニメを解析する
馬場博史千里国際中等部高等部数学科教諭著
関西学院大学出版会



暴走するアメリカ大学スポーツの経済学



アメリカの大学のアメリカンフットボールやバスケットボールは大観衆を集めテレビ中継され、プロのリーグのような盛り上がりです。同時に金目当てのスキャンダルも後を絶ちません。本書は大学スポーツを産業として捉え、経済学的に分析しています。経済学の数式も難解な図も出てきませんので、「スポーツかつ経済学」でなく「スポーツまたは経済学」に関心のある諸君は気軽に手に取ってみてください。

宮田由紀夫・国際学部教授著 278ページ 東信堂

東北アジア平和共同体構築のための課題と実践

経済的な結びつきが強い半面、相互の信頼関係は弱い日本・中国・韓国。遣隋使の時代から交流を重ねてきた三国が、今後、歩むべき道は何か。本書は日・中・韓の宗教者や研究者による、東北アジア地域の平和を模索したシンポジウムをまとめた記録集です。14名の論者は平和の礎となる「普遍的な共通理念の構築」を目指すもの。国境を超え「共にすべてのいのちを守る」ための国際協力と自然環境倫理への提言となっています。



山本俊正・商学部教授 宗教主事監修 191ページ 佼成出版社

主は再び我らを憐れみ…
すべての罪を海の深みに投げ込まれる。

ミカ7章19節

クリスマスの飾りが門松に場所を譲ったのはだいぶ前のことであり、門松もすでに姿を消しました。クリスマスが終わり、しばらく経ってから、あらためてイエスの降誕について考えるのは意味がないと思う方もいらっしゃるかも知れません。しかし、クリスマスは、他にたくさんいるような、有名な誕生祝いではありません。それは、神が人間と同一になられ、人間の姿で現れたことを祝う日であり、そのたった一日の喜びを、はるかに超える意義を持つ日です。クリスマスとは、ただの喜び、一瞬にして消える感情ではなく、十字架を経てイエスターの復活で終わる一連の出来事の始まりです。解放をもたらす、預言者ミカの言葉を借りれば、「人間のすべての罪が海の深みに投げ込まれる」ことになります。元通りになることはありませんが、再び同じ罪で責められることもありません。なぜなら、神は「慈しみを喜ばれ」(ミカ7章18節)、たとえ自分は人に見捨てられたと考えていても、誰もが無条件に神に愛されているからです。このことを思い出し、心安らかに新しい一年の歩みを始めることができるのは、実に素晴らしいことです。

編集後記

今回の特集で紹介できたのは一部だが、まだまだ多くの関学人が世界では活躍している。関学での学びを力に、これからもたくさんの方が世界に飛び立っていくのだろう。私も負けられない!(りよ)

関西学院大学 Facebook



いいね!

関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね!」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。



日本語版

英語版





DAYS OFFICE

「オフィスらしさ」より、これからは「働く人らしさ」が大切。
ワークスタイルとライフスタイルの境目があいまいになる中で、
働く場としてのオフィスに求められることも変化しています。
仕事のことも、プライベートのことも、同じ感覚で話すことができる。
予想もしなかったような人やモノと出会い、日々気づきや発見にあふれている。
一人ひとりの「らしさ」に寄り添い、自分ならではの気持ちいい使い方ができる。

働く人が大事にしたい価値観を、
ちゃんと大事にできる余白があるオフィスへ。

ワークスタイルも、ライフスタイルだ。